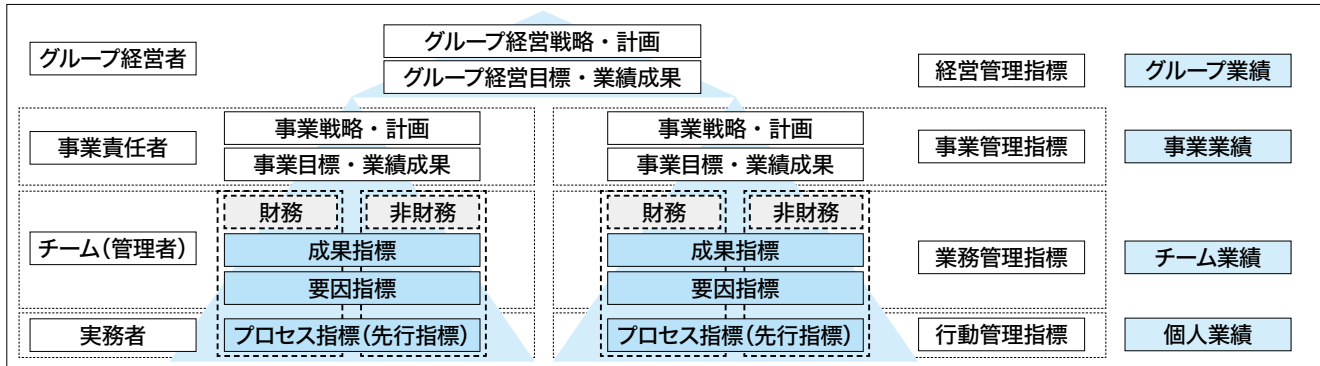


(図表5) 連結管理会計体制における目標設定



現場が自律的に改善できる環境と現場への支援

現場力を発揮するための環境づくりが重要となるが、どのような環境を提供すべきかを考えたい。まずは現場に必要な情報提供をす

現場における情報の見える化の必要性

管理会計といえ、管理指標や財務データなどを可視化して管理させるイメージがあるものと思う。確かにこれで業績向上ができるのであれば、それでもよいが、実態はどうだろうか。事業実態を正しく把握するには、社内の管理指標や財務データのみだ

正しい状況把握には「見える化」が必要 「情報活用」に着目した 体制構築の考え方

ることが挙げられるが、現状においては、階層組織のため、情報が上層部にみに集中していたり、横串での連携がされておらず、他部門や他拠点の状況を把握することができないなどの課題があると思われる。しかし、今後は情報化の流れにより、現場の見える化が促進されていくものと思われる。詳しくはパートⅢで後

述する。
また、現場のみでの対応に依存するのではなく、本部からの支援を行い、経営におけるビジョンや戦略などの共有および事業状況のモニタリング、分析・評価、経営への報告支援などを連携して進めていくことなども効果的となる。

けでなく、販売状況や生産状況などの業務データや、市場動向や競業他社の状況などの外部情報などの「多面的な情報」が見える化していくことが必要である。たとえば、予算どおり売上が推移して安堵しているも、市場が活況で、競合他社が売上倍増している場合、予算どおりに推移していることは経営上よいこととは必ずしもいえず、事業実態を把握したとはいえない。

で管理することは効率的であるといえるが、前述のとおり、実態を把握できたとはいえず、情報技術を活用して、より多くの情報をスピーディーにみたいときにみられるようにしたほうがよい。かつては、多面的な情報を見るために膨大な費用が必要であったが、情報技術が進化した現状においては、低価格な情報機器をうまく活用し、多面的な情報を見ることができるといえる。